

2026(令和8)年度
愛知大学大学院 第2期入学試験 試験問題

中国研究科 中国研究専攻 博士後期課程

一 般 入 学 試 験
外 国 語
英 語
試験時間（外国語合計）120 分

1. 出願時に選択した科目名であることを確認すること。違っている場合には、監督者に申し出ること。
2. 監督者の指示があるまで問題用紙を開かないこと。
3. 解答は全て解答用紙に記入すること。
4. 試験室内では監督者の指示に従うこと。

以下の文章を和訳せよ。固有名詞は英語のままで記してかまわない。なお回答に際しては各段落の冒頭に対応する問題文の段落番号を付すこと。

1. Last January, as Donald Trump stormed back into the White House, spoiling for a trade war and backed by an army of credentialed China hawks, it seemed a pretty safe bet that his return would mean an escalation of America's great power rivalry with Beijing, what foreign-policy people had long since taken to calling, loosely, the New Cold War.

2. In 2026, the country is in a remarkably different place geopolitically. A year of hostility toward Canada has driven that country into China's arms — our brotherly neighbor and most loyal ally breaking formation with us and striking an electric vehicle trade deal that looks like such a departure, it's been described as "making China great again."

3. Is this détente? Time will tell, but for now at least it marks a cool-down. And the story is bigger than our capricious president and his eternal desire to mesmerize us with surprise shows of smash-and-grab power. Over the last year, among foreign policy thinkers well outside of Trump's orbit, there has been what the China commentators Jeremy Goldkorn and Kaiser Kuo identified as a "vibe shift," with an intuitive rivalry with the world's other great power giving way to a complicated tangle of attitudes held together by simple awe. For a long time, American thinking about China was driven by hawks who insisted that the rival must be defeated, however defeat was defined. But what had been a broad consensus has fractured, with many more policy wonks beginning to ask instead whether we might ever catch up, and contemplating the possibility that, while the future is enormously uncertain, the answer may well be no.

4. You may already know the broad outlines on green tech: China is now installing roughly two-thirds of the world's new wind and solar capacity each year, manufacturing inputs to the green transition at such scale and driving down the cost of such components so quickly that the developing world is now rushing to buy them at breathtaking speed. China manufactures 60 percent of the world's wind turbines and in 2024 installed nearly 20 times as much wind power as the world's second largest installer; it commands more than 70 percent of global production for E.V.s; and, despite relatively good news in the battery sector for the United States, China produces approximately 90 percent of that global market, too. If you measure the progress of civilization by its electricity production, then China is racing well ahead of the rest of the world.

5. A year ago you heard economic patriots emphasizing the American advantage in A.I., but China seems to have effortlessly almost eliminated it: Last fall, Jensen Huang of the American chip powerhouse Nvidia said that China was poised to win the A.I. race, before softening his official position. Chinese companies ran nearly one third of all clinical trials in 2024, up from 5 percent just a decade ago, and the total value of drugs licensed globally from China has grown 15-fold in just the last five years. There are those who fret over China's massive research and R&D spending, and its new appeal for international researchers and its rapidly growing share of top scientific publications.

7. And then there is the country's astonishing pace of urbanization, with the number of people in Chinese cities more than doubling — from 450 million to over 900 million — just since 2000. If you worry over our housing crisis, and especially if you blame the slowdown in American construction for it, you may be startled to hear that more than two-thirds of all Chinese housing has been built since the turn of the millennium — and that more than 90 percent of Chinese own their own homes.

8. Two decades ago, many Americans assumed that the Beijing model could not sustain a challenge to American hegemony without collapsing under its internal contradictions and shortcomings. One decade ago, China hawks began to fret that much more needed to be done to box out the rising power. And though it still isn't consensus and there is still plenty of competitive hysteria, over the last year we've begun to hear many more wondering whether the race has already been lost.

9. This shift is pretty disorienting for a cocky country such as United States, as Kuo wrote recently. "We have witnessed not merely the rise of another great power, but a fundamental challenge to assumptions long embedded in Western thought — about development, political systems, and civilizational achievement itself," he wrote. "We simply haven't yet found the intellectual courage to face it."

10. Or perhaps we are just now beginning to — some growing fatalistic, others envisioning a world defined less by imperial rivalry than by balance, others by lashing out against old allies and former adversaries in a desperate performance of strength against those we remain confident we can intimidate and overwhelm.

2026年1月21日、ニューヨーク・タイムズ電子版に掲載された論考を編集した。このため原文の趣旨を適切に反映していない場合もある。

この部分の記入はお控えください。

Blank lined area for writing.

入学年度および実施時期	2026年度第2期
修士課程・博士課程の別	博士後期課程
実施研究科	中国研究科
専攻・コース等	中国研究専攻
入試方式	一般入学試験
科目名	英語
試験実施日	2026年2月16日
解答又は解答例及び出題意図 （試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと）	
【出題意図】 問題用紙に記載したように、2026年1月21日、ニューヨーク・タイムズ電子版に掲載された David Wallace-Wells のエッセイから一部を抜き出したもので、一般的な読みやすい文章と複雑な文章の中間程度の難易度を狙って出題した。同時に、中国脅威論一辺倒になりがちな日本から見ると、アメリカの方が多様で柔軟な見方があることに気づくのではないだろうか。 【解答例（採点時の観点）】 英語の文献を読み込むための能力を評価する観点から、文法上の間違いなどはあまり重視せずに全体の文意をどれだけ読み取れているかを中心に採点した。	

2026(令和8)年度
愛知大学大学院 第2期入学試験 試験問題

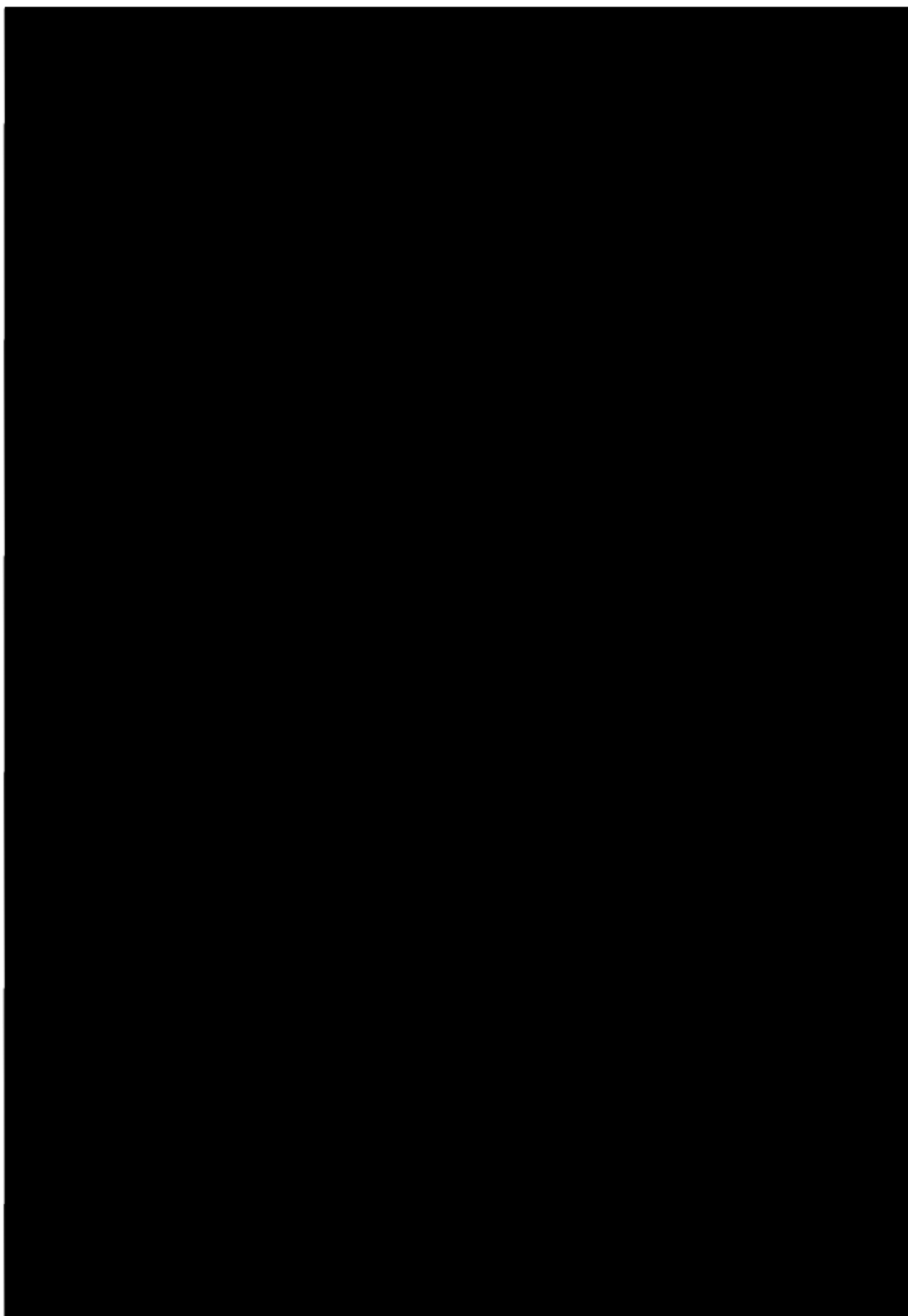
中国研究科 中国研究専攻 博士後期課程

一 般 入 学 試 験
外 国 語
日 本 語
試験時間(外国語合計) 120 分

1. 出願時に選択した科目名であることを確認すること。違っている場合には、監督者に申し出ること。
2. 監督者の指示があるまで問題用紙を開かないこと。
3. 解答は全て解答用紙に記入すること。
4. 試験室内では監督者の指示に従うこと。

(注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。)

I 次の文章を読み設問に答えよ。解答は字数等の指定がある場合を除き、解答欄に収まるよう記し、引用文は「 」に入れて示すこと。





(松本哉『寺田寅彦は忘れた頃にやって来る』)

- 問1. 二重線部㊸から㊿の漢字の読みをそれぞれひらがなで記せ。
- 問2. 傍線部㊾の「大病」とは何の病気か。問題文中の最も適当な単語を記せ。
- 問3. 傍線部㊿「いつも仕事をしている研究室のようす」について、当時の寺田寅彦研究室にあった家具や用品等、毛布以外に3種記せ。
- 問4. 傍線部㊾「このようなときなのだ、人ががらりと変わったりするのは」について、寺田寅彦の大病をきっかけとして、何がどのように変化したのか。全体にわたって「寺田氏・大病・研究・一般向け」という語句を必ず用い、300字以上400字以内で説明せよ。300字に満たないものは0点とする。

Ⅱ 次の文章を読み設問に答えよ。解答は字数等の指定がある場合を除き、解答欄に収まるよう記し、引用文は「 」に入れて示すこと。

われを忘れるのは、睡眠中とは限らない。①気の合う人と夢中になって話し合っているときなど、頭は喜々として立ちほたらくようである。親しいといっても、家族などが相手でははり合いに欠ける。家族団欒の中で発明をしたという例はまずないと言ってよからう。他人でなくてはいいけないが、同業の同僚などは妙なライバル意識や警戒心が先立って自由な思考の妨げになる。同僚の間での談話ははなはだ非生産的で、些末な退屈しのぎの雑談ときまっている。ゴシップや世間話になるのがおちだ。

②烟ちがいの人との交流がよい。近年、異業種交流とか学際的研究とかが注目されているが、もっと素朴な形ながら、同じことをしていない人との談笑が豊かなアイディアの温床である。しかし、毎日のように会ったりするのはおもしろくない。定期的に、しかし、適当に間をおいて、会って、気楽に、思ったことを話し合う。それが、相互にとって刺激的なヒントになり、アイディアを生むきっかけになる。

ロータリークラブが、地区ごとに一業一人の会員によって組織されているのは、すぐれた知恵だと思われる。同業者がほかに一人でもいれば、意識しなくても、遠慮があり、のびのびと羽根をのばすのを妨げられて、おもしろくなくなる。それをあらかじめ封じているのはすぐれた洞察である。

聞いているほかの人が自分のしていることをよくは知らないと思うと、不思議な自信がわいてくる。自分の分野に関しては、“③お山の大将”の気分である。心がはずむ。調子にのって、よくも考えないことまでしゃべる。自分でもびっくりするようなことがある。はなはだ創造的で、なによりたのしい。

(外山滋比古『アイディアのレッスン』)

(注意：解答はすべて解答用紙に記入すること。)

問1. 傍線部②「畑違いの人」とはどういう意味か。この文章で言われている意味を問題文に即して説明せよ。

問2. 傍線部③「お山の大将」とはどういう意味か。この文章で言われている意味を問題文に即して説明せよ。

問3. 傍線部①「気の合う人」について、筆者はどのように考えているのかを記せ。さらに、あなたにとって「気の合う人」とはどういう人なのか、筆者の考えと相違点があっても構わないので、良識ある範囲で自由に記せ。全体にわたって「外山氏・家族・同僚・気楽」という語句を必ず使い、300字以上400字以内で記せ。300字に満たないものは0点とする。

博士後期課程

中国研究科	＜一般・外国人留学生入試＞
第1外国語	
科 目 名	日本語

採 点	 100
--------	---

(試験時間 60 分)

I 解答は字数等の指定がある場合を除き、解答欄に収まるよう記し、引用文は「 」に入れて示すこと。

問 1. 二重線部㊤から㊩の漢字の読みをそれぞれひらがなで記せ。

㉑斑点 () ㉒恩賜賞() ㉓隨筆 () ㉔靜養 ()

㊦瀬戸際() ㊧効果 () ㊨雄弁 () ㊩卒倒 ()

①傍觀 () ②沒後 ()

問2. 傍線部①の「大病」とは何の病気か。問題文中の最も適当な単語を記せ。 ()

問3. 傍線部③「いつも仕事をしている研究室のようす」について、当時の寺田寅彦研究室にあった家具や用品等、毛布以外に3種記せ。

() () ()

問4. 傍線部②「このようなときなのだ、人ががらりと変わったりするのは」について、寺田寅彦の大病をきっかけとして、何がどのように変化したのか。全体にわたって「寺田氏・大病・研究・一般向け」という語句を必ず使い、300字以上400字以内で説明せよ。300字に満たないものは0点とする。

[illegible]

この部分の記入はお控えください。

Ⅱ 解答は字数等の指定がある場合を除き、解答欄に収まるよう記し、引用文は「 」に入れて示すこと。

問1. 傍線部②「畑違いの人」とはどういう意味か。この文章で言われている意味を問題文に即して説明せよ。

問2. 傍線部③「お山の大将」とはどういう意味か。この文章で言われている意味を問題文に即して説明せよ。

↑ 問2の回答は上の線まで。問3の解答欄は次のページ。

[illegible]

入学年度および実施時期	2026年度 第2期
修士課程・博士課程の別	博士課程
実施研究科	中国研究科
専攻・コース等	
入試方式	一般・外国人留学生入学試験
科目名	日本語
試験実施日	2026年2月16日
解答又は解答例及び出題意図 （試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと）	
外国語の試験で日本語を選択できるのは「愛知大学大学院 学生募集要項」で「外国語試験の特例」に記されている場合である。実際の受験生は中国人留学生が大部分である。日本の大学院博士課程であるので、やはり日本語の運用能力が高いことが望ましい。その運用能力を測る問題を出題している。以上は大問Ⅰ・Ⅱともに共通している。 Ⅰ 問題文として出題した文章は、大学教員でもあり、エッセイも数多く書いた寺田寅彦に関するものである。 問1. ㊤はんでん ㊦おんししょう ㊧ずいひつ ㊨せいよう ㊩せとぎわ ㊪こうか ㊫ゆうべん ㊬そつとう ㊭ぼうかん ㊮ぼつご 問2. 胃潰瘍 問3. 作業台・机(寺田の机、助手の机でも良い)・洋服掛け・帽子掛け等の中から3種書けば良い。 問4. 【出題意図】 小論文に相当する問題である。設問に対して適切に答えた内容が望まれる。以下の点も採点のポイントである。日本語として意味の通る文章であるのか。日本の常用漢字を正しく記しているのか。指定された語句を用い、字数を守っているのか。 Ⅱ 問題文として出題した文章は、学生によく読まれるエッセイを書いた外山氏の作品である。 問1. 文中にあるように「同じことをしていない人」のことを意味し、具体的には職業の違う人などを言っている。このような点が書かれていれば良い。 問2. 「聞いているほかの人が自分のしていることをよくは知らないと思うと、不思議な自信がわいてくる。」という部分を引用し、説明すれば良い。 問3. 【出題意図】 小論文に相当する問題である。設問に対して適切に答えた内容が望まれる。以下の点も採点のポイントである。日本語として意味の通る文章であるのか。日本の常用漢字を正しく記しているのか。指定された語句を用い、字数を守っているのか。	

2026(令和8)年度

愛知大学大学院 第2期入学試験 試験問題

中国研究科 中国研究専攻 博士後期課程

一 般 入 学 試 験
外 国 語
中 国 古 文
試験時間(外国語合計) 120 分

1. 出願時に選択した科目名であることを確認すること。違っている場合には、監督者に申し出ること。
2. 監督者の指示があるまで問題用紙を開かないこと。
3. 解答は全て解答用紙に記入すること。
4. 試験室内では監督者の指示に従うこと。

訴姪盜賣田

吳恕齋

華綱、華緯及其子惟德、惟忠，紹定二年至嘉熙三年，前後十契，將田六畝有奇，正典斷賣與陳舜臣爲業，并已經官投印。華綱、華緯死，陳舜臣亦死，而華大成者，乃以爲故祖華詠遺下未分之田，訴其姪惟忠、惟德瞞昧盜賣與陳舜臣之子可久。縣追各人供對，大成則曰，此係故祖華詠遺下未分之田，惟德、惟忠則曰，此係故父華綱、華緯自己分受之田。官司於此且合追索兩家干照，究證是與不是未分之田，則曲直予奪瞭然矣。夫何含糊於已分、未分之間，依阿乎有分、無分之說，但令華大成備二畝價錢，於可久家撥贖二畝。惟其是非未明，此大成望蜀之心，獨不止於得二畝，可久全璧之意，又未忍於割二畝，其訟所以不已也。要之，撥二畝之說未爲至當，而已分、未分之爭合與究竟。使其果是未分之田，則華詠生四子，祖業作四分，此田合四分分贖，豈止大成一分可贖二畝而已。照得華詠四子，先分析於開禧二年，華綱、華大成兄弟又分析於嘉定年間，何爲已分析三十年，而尚有未分之田邪？又何爲不爭訴於三十年前華綱未死之日邪？又何爲諸分不爭，而一分獨爭邪？此田謂之未分，官司何所憑據？若曰故祖遺下未分之田，則必有衆存文約，又必有各分分書，互載可照。所合索上究證，則無者不得盡其辭矣。但兩干涉人衆，若一一追到府，恐成煩擾，欲送富陽縣，詳所擬追索干照，從公結絕。限五日申。

博士後期課程

中国研究科	＜一般・外国人留学生入試＞
第2 外国語	
科 目 名	中国古文

採 点	
--------	--

(試験時間 外国語合計 120 分)

問題：別紙の史料（中国古文）を日本語に訳しなさい

この部分の記入はお控えください。

Blank lined area for writing.

入学年度および実施時期	2025年度 第2期
修士課程・博士課程の別	博士課程
実施研究科	中国研究科
専攻・コース等	中国研究専攻
入試方式	一般
科目名	中国古文
試験実施日	2026 年2月16日
解答又は解答例及び出題意図 （試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと）	
【出題意図】 近代以前の漢文史料（中国語古文）の読解能力をはかる問題。 『名公書判清明集』に収められているのは、裁判の判決原案とみられるものであり、各条は1つの完結した裁判事例をあらわしたものであり、全体がまとまった論理展開をもった文章となっている。 漢文の読解力とともに、裁判というものの論理的な流れを正確に理解して解答できているかどうか、当時の社会と家族についての知識を問うている。 【解答例（採点時の観点）】 採点時の観点としては、近代以前の中国古文（漢文）を正しく解読できているかどうかに加えて、3点ある。 まず、史料中に出てくる各人の血縁関係を正確に把握できていることがポイントである。次に、裁判における当事者各人の主張と各官庁の見解を正確に理解できているかということが重要である。そして、裁判全体の流れ、議論の推移をしっかりとらえているかである。 以上3点と、正しい日本語に翻訳することができているかどうかの総合評価で採点をおこなった。	